

第Ⅱ章. 計画の基本的な考え方

1. 計画のコンセプト
2. コンセプトの具体化

1. 計画のコンセプト

1. 計画のコンセプト

■前章の銚田市教育目標を受けて、銚田南中学校区統合小学校の学校づくりの基本方針（案）を設定します。
また、基本方針を実現するための5つの目標を定めます。



子どもにやさしい木材の内装仕上げのイメージ



交流スペースのイメージ

幼小中連携を推進する

- 社会性の育成
- 異学年交流の促進
- 中一ギャップの解消
- 専科制の重視

【具体化の方法】

ソフト

- ・異学年合同授業・合同行事の実施
- ・教員の小中学校併任
- ・教科専任教師の配置

ハード

- ・交流スペースの設置
- ・多目的スペースの設置



ALTによる英語の授業のイメージ



中・高学年のオープンスペースのイメージ

子どもたちが安心・安全に学習、生活できる

- 日常安全性の確保
- 防犯安全性の確保
- 防災安全性の確保

【具体化の方法】

ソフト

- ・地域に開いた学校
- ・スクールバスの運用

ハード

- ・子どもにやさしい素材の使用
- ・明快な避難動線
- ・耐震性に優れた校舎
- ・職員室から校内が見渡せる配置
- ・保護者の駐車スペースの確保

銚田南中学校区統合小学校の基本方針(案)

銚田市の未来を担う 子どもたちの夢を育む学校

(従来の既成概念にとらわれず、地域で子どもたちを育てていく学校をつくる)

国際社会に貢献する人を育てるフレキシブルな学習空間

- 英語教育の重視
- メディア・リテラシー教育の充実
- 発表活動の重視
- 教科を超えた学習を誘発する環境形成
- 子どもの成長に合わせた学習環境
- 地域の理解を深める環境

【具体化の方法】

ソフト

- ・少人数学習・グループ学習
- ・習熟度別学習・TTによる授業
- ・ALTの配置

ハード

- ・オープンスペースの設置
- ・メディアセンターの設置
- ・英語教室の設置
- ・特別教室の多機能化
- ・学齢により空間の設えを変える



休み時間の居場所のイメージ



外部の居場所のイメージ

子どもたちが群れ交流する空間

- 学校としての秩序の形成
- 子どもたちの生活空間の充実
- 地域の子どもたちの交流の場

【具体化の方法】

ソフト

- ・統合前の子どもたちの交流

ハード

- ・生活空間と学習空間を区別する
- ・休み時間の居場所をつくる
- ・交流ラウンジの設置

地域の交流の場

- 地域への施設提供
- 地域住民との連携
- 防災拠点(避難施設)

【具体化の方法】

ソフト

- ・地域のゲストティーチャーを招く
- ・児童クラブの併設

ハード

- ・地域交流ラウンジの設置
- ・PTA室の設置
- ・避難所としての機能



メディアセンターのイメージ



地域交流ラウンジのイメージ

銚田市教育目標「夢と希望を持ち、未来を拓く心豊かな人づくり」を実現します。

※写真は文部科学省「新たな学校施設づくりのアイデア集」より抜粋しています。

2. コンセプトの具体化

- (1) 施設構成の概要
- (2) 学年ゾーンの構成
- (3) 特別教室まわりの構成
- (4) 施設全体の構成

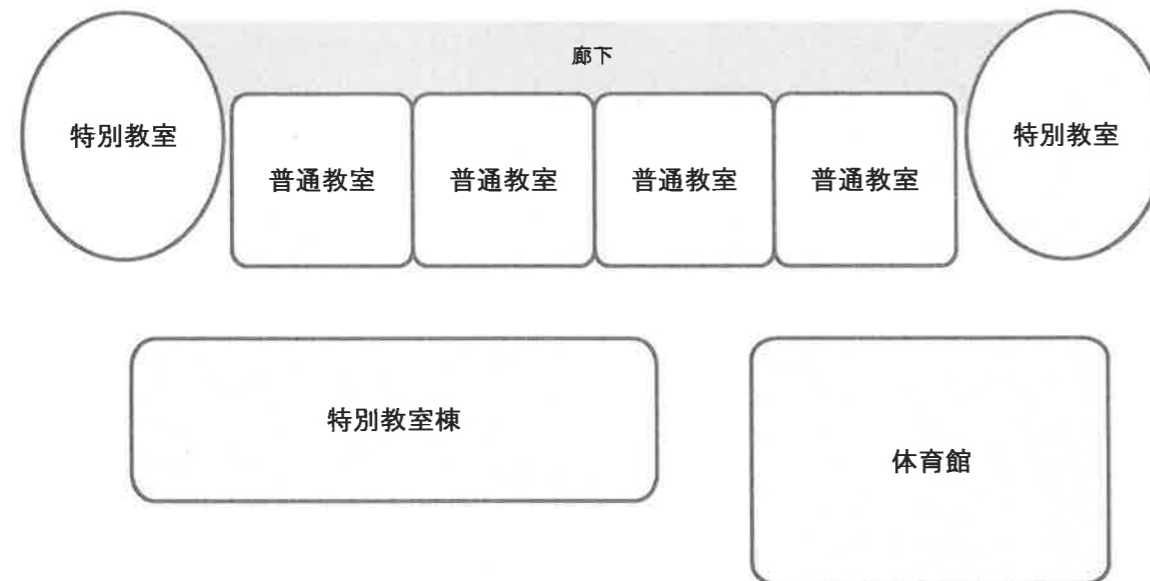
2. コンセプトの具体化

(1) 施設構成の概要

- 学校の中心にある子どもたちの活動拠点
- 情報収集・発信の拠点
- 多様なコミュニケーションが生まれる拠点

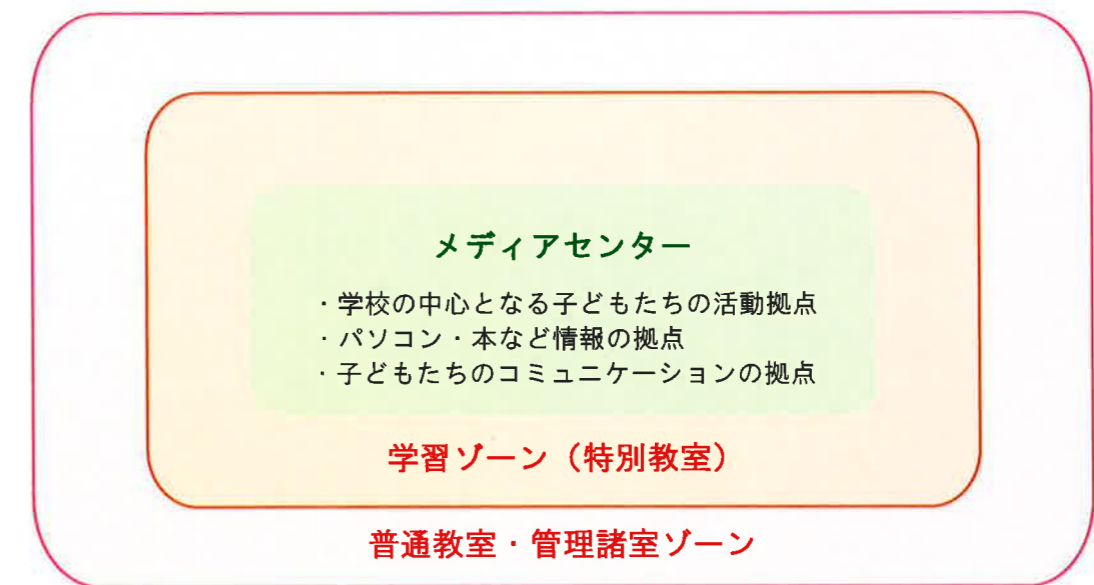
》》》フレキシブルな学習空間の設置

1) 従来型の学校



従来型の学校は教室が廊下に沿って並んでいるだけで、教室同士の連携を図りフレキシブルに活用しづらいかたちになっています。また、特別教室は普通教室から遠い位置にあり、別棟になっている場合もあります。

2) メディアセンターを学校の中心につくる



- ・ 国際社会に貢献できる人を育てる学校とするために、子どもたちが本やPCなどの情報ツールを通して、世界とつながることができる**メディアセンター**を学校の中心に整備します。
- ・ 異学年の児童ともコミュニケーションがとれるように、子どもたちの生活領域が学校全体に広がる構成にします。
- ・ 情報化社会において、コミュニケーションの手段は多様化しています。インターネットを利用して離れた場所にいる人たちとつながったり、情報メディア機器を使って映像を見ることもコミュニケーションといえます。本計画では、多様なコミュニケーションが活性化する場をつくれます。

3) 新しい学校の考えられるパターン

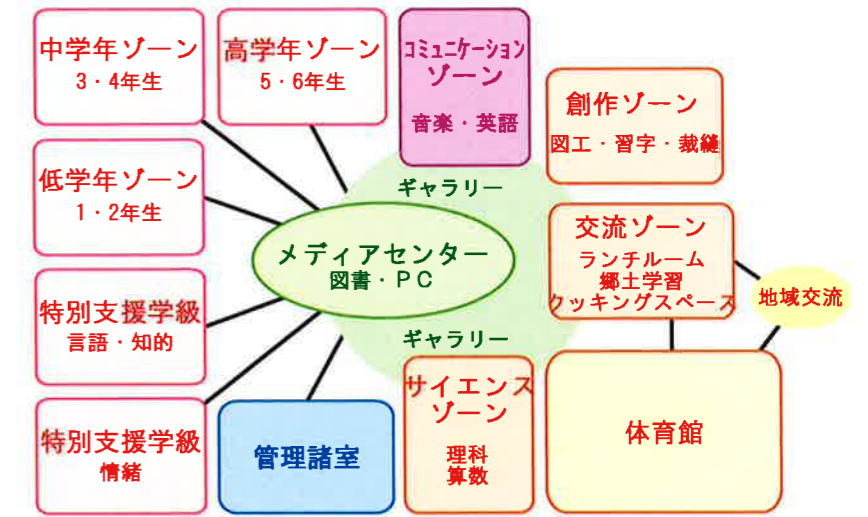
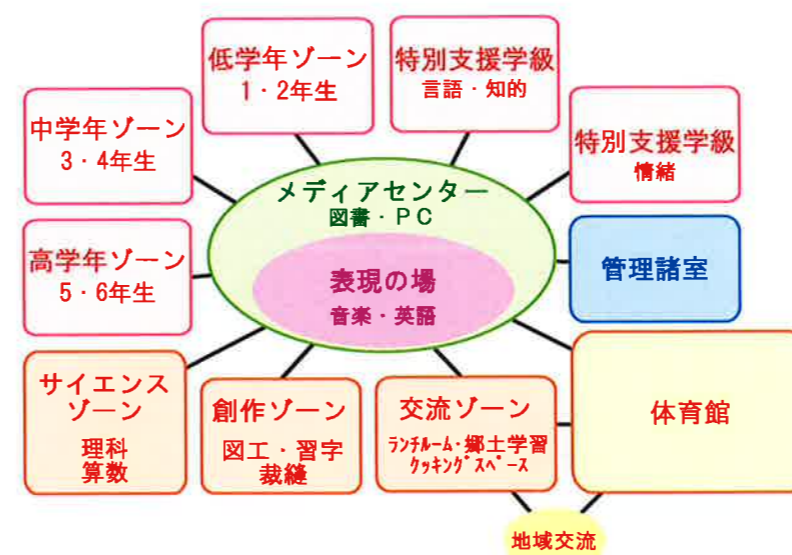
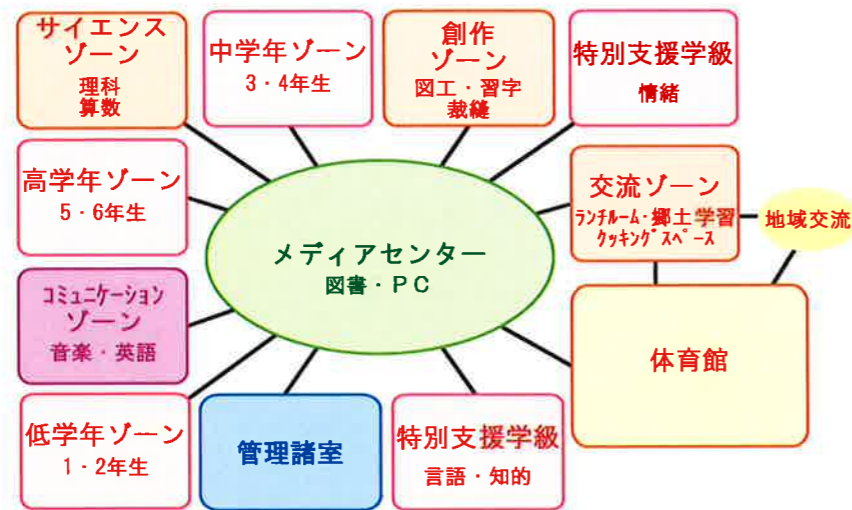
- ・新しい学校は、「国際社会に貢献する人を育てるフレキシブルな学習空間」を実現するため、メディアセンターや表現の場などを学校の中心に据えて、それを取り囲むように学年ゾーン、特別教室ゾーンを配置します。教室同士の連携が図れ、フレキシブルに活用できるように考えます。
- ・全体の構成としては、以下の3パターンが考えられます。

パターンA. メディアセンターを中心とした学校

パターンB. 表現の場を中心とした学校

パターンC. 特別教室をギャラリーでつないだ学校

概念図



基本的な考え方

メディアセンターを中心として、普通教室、特別教室などをまわりに配置します。

メディアセンターを中心として、周りに各教室を配置します。また、学校の中心に発表活動などができる「表現の場」を設けます。

メディアセンターを中心として、周りに各教室を配置します。特別教室はまとまりをもって配置し、教科のギャラリーでつなぎます。

特別教室の連携

特別教室は、その教科の利用頻度が高い学年ゾーンの近くに配置します。

各特別教室は、「表現の場」と連携しやすい位置に配置し、特別教室での発表活動がより活発に行えるように構成します。

特別教室は教科のギャラリーでつなぎ、教科を超えた学習活動を誘発するフレキシブルな空間をつくります。

学年間の交流

各学年ゾーンは独立性を持って配置し、メディアセンターを中心に異学年の交流が生まれるように構成します。

各学年ゾーンは日常的に交流できる距離に配置し、異学年の交流を誘発します。

各学年ゾーンはまとまりをもって配置します。また、メディアセンター、教科のギャラリーは異学年の学習活動に触れるスペースとなります。

- ・本計画は特別教室が教科を超えた学習活動の場となること、異学年が交流可能な多目的スペースが求められます。したがって本計画ではパターンCを基本とします。

(2) 学年ゾーンの構成

1) 普通教室配置の基本パターン

普通教室は多様なコミュニケーション活動に対応できるように、フレキシビリティの高い配置を考えます。

また、将来の児童数減少を見込んで教室数は3クラスを想定します。

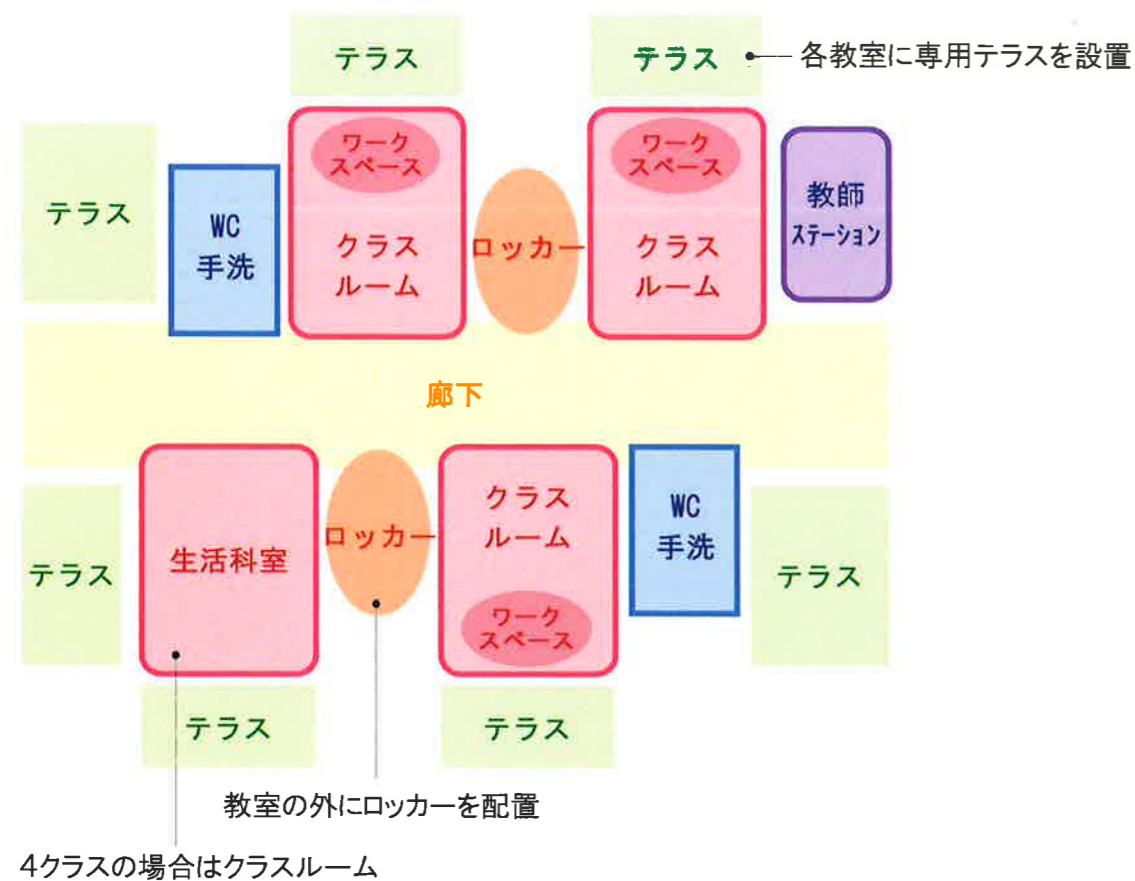
その際、各学年ゾーンに1つ余裕教室（低学年は生活教室、中高学年は少人数教室）を配置し、4クラスの期間にも対応できる計画とします。

a. 低学年ゾーン

①廊下を挟んで教室が対面する配置

廊下を挟んで普通教室を対面させることで、各教室間の距離が近くなります。

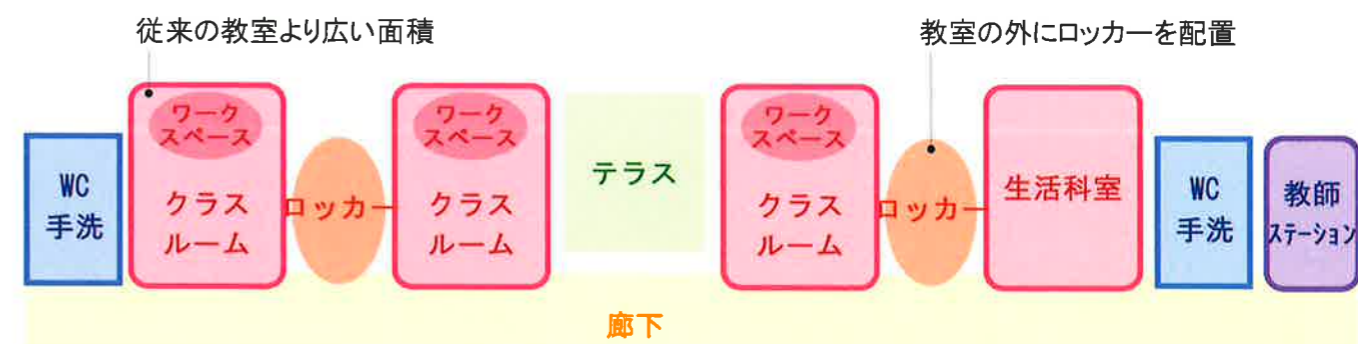
また、教室同士が向き合うことで、連携が取りやすくなります。



②片側に廊下のある配置

廊下に沿って普通教室、ロッカースペース、テラスなどを配置します。

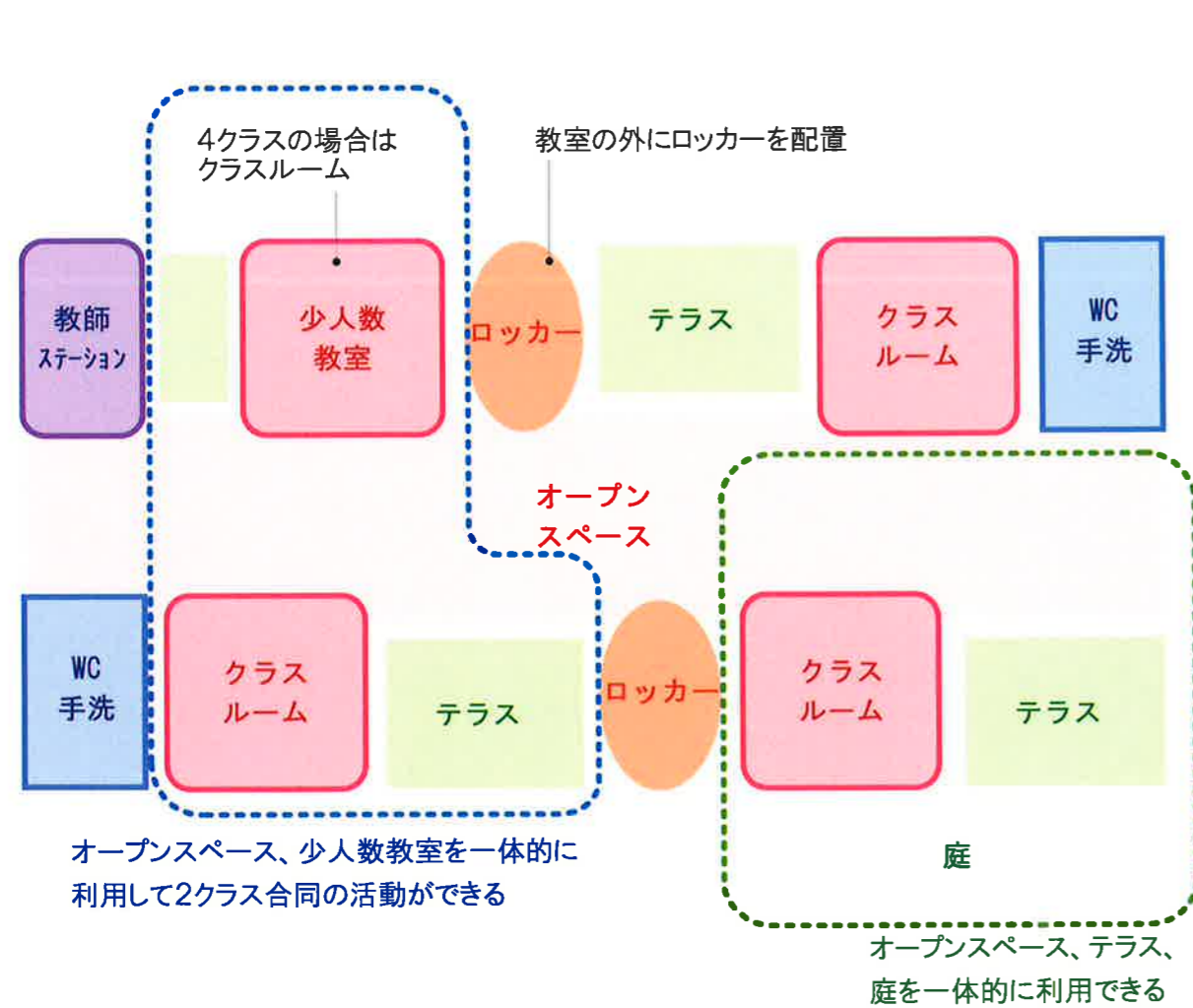
様々なスペースが挟まることで、各教室間の距離が長くなってしまいます。



b. 中高学年ゾーン

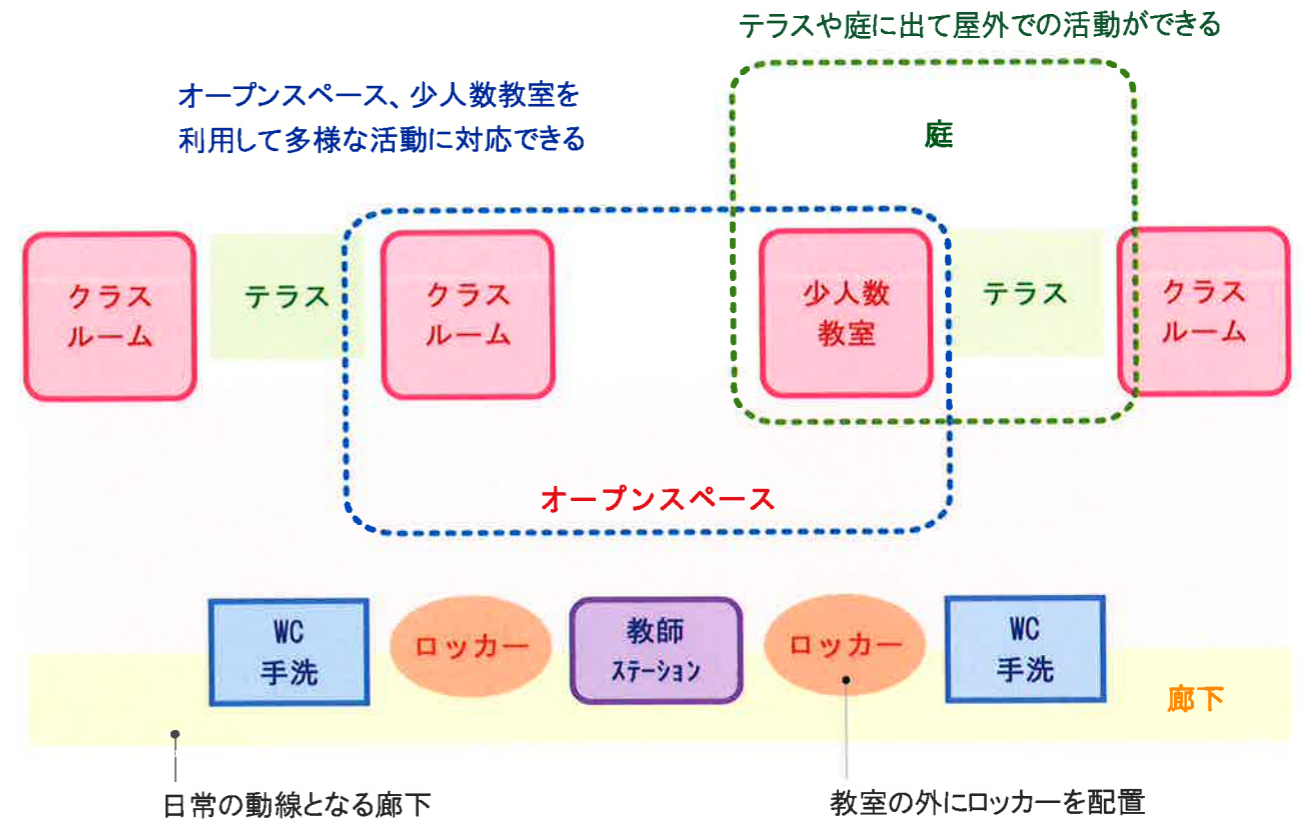
①オープンスペースを挟んで教室が対面する配置

オープンスペースを挟んで普通教室を対面させることで、各教室間の距離が近くなります。
また、オープンスペースや少人数教室、テラスと連携して、様々な授業形態に対応しやすい配置となります。



②片側にオープンスペースがある配置

普通教室、少人数教室、テラスなどを並列させて、その前にオープンスペースを配置します。
オープンスペースを挟んで反対側にはロッカースペース、WC、手洗いなど生活のための場を設けます。



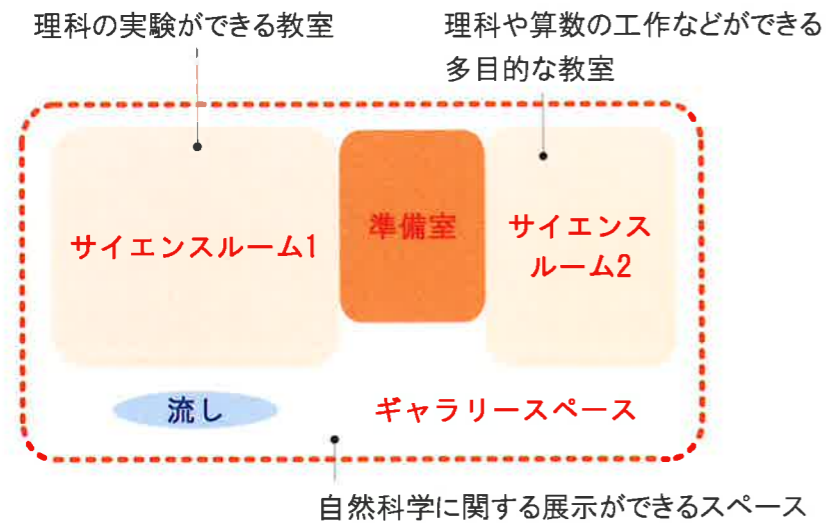
(3) 特別教室まわりの構成

1) 特別教室配置の基本パターン

様々な学習活動を誘発する特別教室は、教科と一対でないゾーンの形成を検討します。

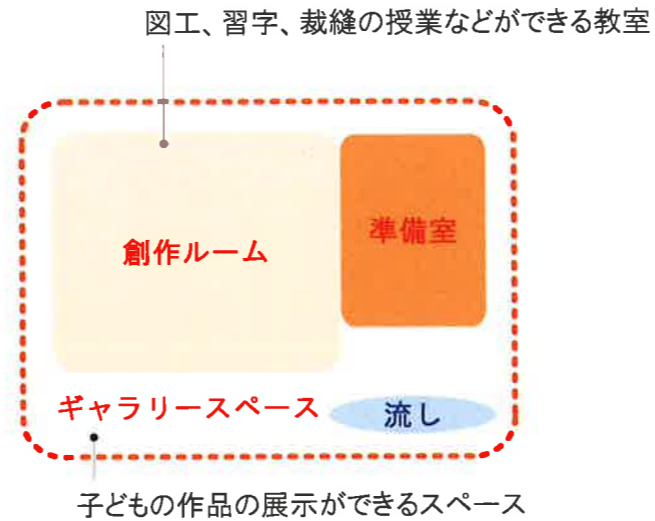
a. サイエンスゾーン

理科の実験や算数の工作などができる環境をつくります。
 ギャラリースペースは自然科学に関する掲示や展示を行い、
 子どもたちの好奇心がわくような空間に設えます。



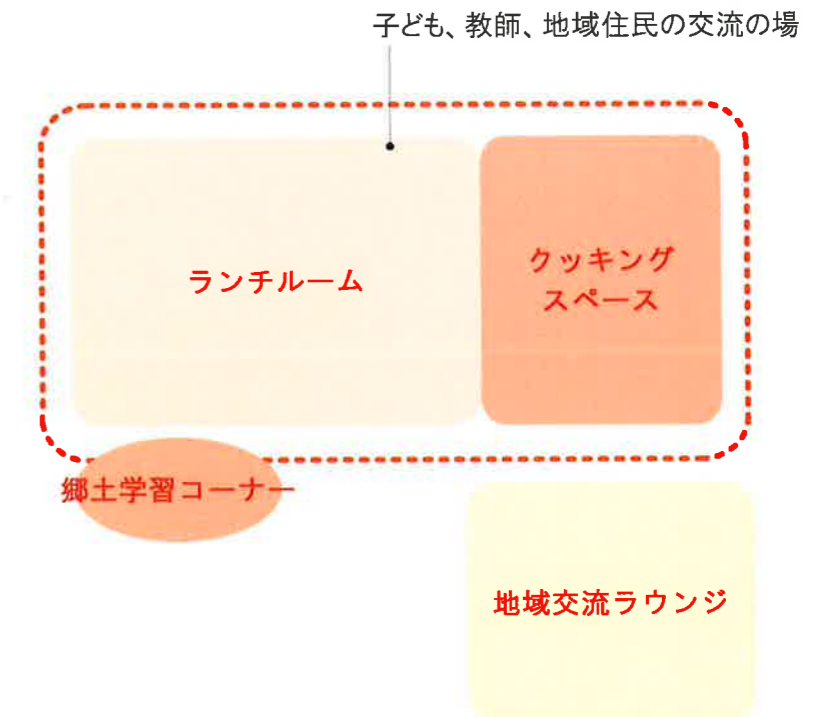
b. 創作ゾーン

図工の授業や習字、裁縫などの創作活動が行える環境をつくります。
 また、ギャラリースペースを隣接させて、子どもたちの作品を展示できるスペースを設けます。



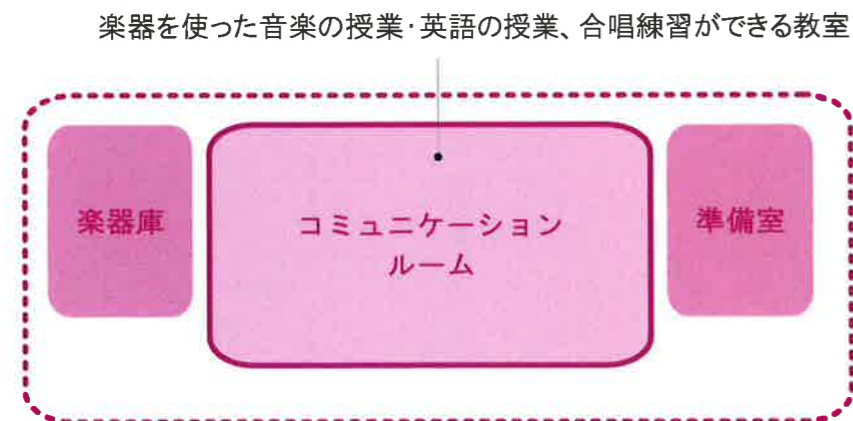
c. 交流ゾーン

ランチルームを中心に、調理実習ができるクッキングスペース、地域の歴史を展示する郷土学習コーナーなどを設けます。また、地域交流ラウンジと連携して、多様な交流活動の場となることも考えます。



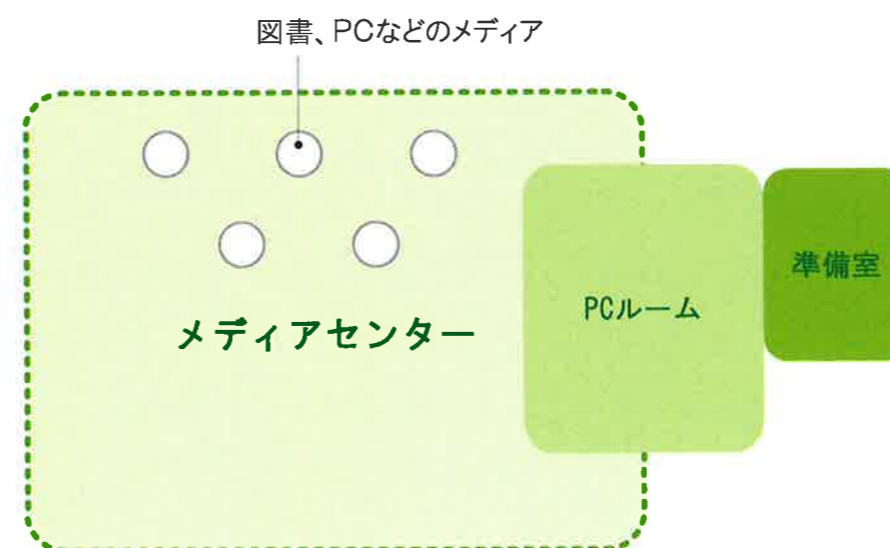
d. コミュニケーションゾーン

楽器を使った音楽の授業ができる教室や英語の活動や合唱の練習など音の出る授業ができる教室を設けます。
 また、練習の成果を発表できる大階段を近くに設け、発表・表現活動の場をつくることを考えます。



e. メディアセンター

メディアセンターは子どもたちが日常的に図書やPCなどのメディアに触れられる空間を設えます。
 また、PCルームと融合させて、調べ学習に適した環境を整備します。



(4) 施設全体の構成

1) メディアセンターを中心に構成する

a. ゾーン配置の考え方

- ・メディアセンターは本やパソコンを子どもたちが日常的に利用できる学習空間の中心として校舎中央に配置します。
- ・PC室や理科室、特別活動室などを周囲に隣接させます。これらと連携して授業を行うことで学習の幅を広げるだけでなく、コミュニケーションの活性化にもつながります。

b. 空間のつながりをつくる

- ・オープンなメディアセンターを中心に据えることで各学年ゾーンや特別教室がつながりを持った状態をつくります。
- ・廊下をなくし、メディアセンターを通り抜けることで、子どもたちが日常的にパソコンや本に触れられる環境をつくります。

c. コミュニケーションの拠点になる

- ・メディアセンターは学校全体のリビングのような場所で、子どもたちの居場所となるスペースです。
- ・メディアセンターを中心に授業・学校生活を送ることで、クラス・学年の枠を超えた子どもたちの交流、学び合いの機会をつくります。
- ・視覚的・機能的に空間をつなげることで、自然に校内のコミュニケーションが広がる計画とします。

d. ネットワークの整備

- ・メディアセンターを起点として学年ゾーンや特別教室等にもメディア機器を充実させて、学校全体がネットワークでつながる環境を整備します。

